

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
株主確定基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
単元株式数	100株
広告掲載方法	電子公告で行います。 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行うこととします。なお、公告掲載URLは以下の通りとなります。 http://www.eneres.co.jp/
株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (フリーダイヤル) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
各種事務手続き	詳しくは、こちらのホームページにてご確認ください。 http://www.tr.mufg.jp/daikou/

ご注意：株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

当社ウェブサイトでは株主の皆様向けの情報をはじめ、
企業情報、事業紹介や最新のニュースをご覧ください。

株式会社 エナリス

検索

<http://www.eneres.co.jp/>



株式会社 エナリス

本社／〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



株 主 通 信

2013.1/1－2013.12/31 証券コード：6079

株式会社 エナリス

President Interview

社長インタビュー



電力のあり方が社会を変える。
おれない想いで、
成長を続けてまいります。

代表取締役社長 **池田 元英** *Motohide Ikeda*

当社は、2013年10月8日に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。
これもひとえに、ステークホルダーの皆様の温かいご支援、ご指導の賜物と心より御礼申し上げます。
今後とも社員一同たゆまぬ努力を続け、社会に貢献できる企業となりますよう一層精進してまいります。

Q マザーズ市場への上場、その意義と現在の成果についてご説明ください。

A 皆様のこれまでの温かいご支援・ご協力の賜物と改めまして心より感謝申し上げます。
資金調達金額に関しては、当社が目指している事業規模からするとインパクトのある数字ではないかもしれませんが、しかし、上場前と比較して、ビジネスのスピード感、成約率の向上という成果が顕著に表れています。
知名度が上がり、当社についてお調べいただき関心もっていただく機会も増え、信頼感を持っていただくこともできました。規模の大きいプロジェクトにお声掛けいただくチャンスも増えてきます。知名度の向上、信頼感など当初の狙い通りの状況となりましたが、今後、この流れに拍車がかかると思っています。

Q 御社を取り巻く市場環境の現状は？また今後の状況はどのように変化しますか？

A 3年前の大震災を機に、エネルギーに対する考え方が大きく変化しています。電力について「もっと議論をしよう」という機運が高まりました。当社が主張する電源選択もその一つです。一般の方でも情報に接することができ、政策に対しての意思決定プロセスが透明化。これは今後も続いていくでしょう。
また、川上から川下、つまり大規模な発電所から家庭や工場へという一方通行の供給形態が変わります。太陽光パネル、燃料電池などの広がり、需要家側に、さまざまな選択を与えてくれます。産業革命に匹敵する変化の前触れが起きていると言えるでしょう。当社の掲げる電力情報業が必要な社会へと変化してまいります。

Q エナリスの経営ビジョンとは？

A 「エネルギーの効率的利用を通じて、世界の文化向上と、人類の平和、繁栄に寄与しよう」。これが、時代が変わったとしてもぶれてはいけない、私たちの考え方です。そのために考えるべきは、「経済合理性」「環境合理性」「社会合理性」の組み合わせです。ここに答えがあります。
エネルギーの効率化によって、ライフスタイルや文化は劇的に変わります。そのための仕組みを創造すること。産業革命と同様のインパクトは目の前にあります。
50年、100年、300年先を見据えて、効率的に電力を提供することで貢献していきたい。時流に迎合せずこのビジョンに基づいて事業を展開していきます。

Q エナリスの事業の特徴、そして強みとは？

A ビジネスを推進する上で、誰の真似もしないことです。ニッチな分野を意図的に狙っています。
当社の根本的な考え方の一つとして「共存共栄」があります。
象徴的な事業は「電力代理購入サービス」です。複数の電気事業者からお客様がエネルギーを選択できるサービスは、各社のいいところ取りができますが、電気事業者としても得意分野に特化、集約ができるというメリットがあります。共に喜んでいただける取り組みです。
ライフスタイルに合った形で電力供給をデザインし、皆様に最高のメリットが出るように、コーディネートする。「電力セレクトショップ」が当社の特徴であり強みです。

Q 中期、長期に向けての経営計画をお聞かせください。

A 太陽光、バイオマス、バイオディーゼルなどの持続再生可能エネルギーに積極的に取り組んでいきます。
一方で、当社の強みである、「HEMS」、「電力代理購入」、「マンションの一括受電 (MEMS)」、「デマンドレスポンス (節電)」をはじめ、電力の効率の良い使い方の提案を、短期、中期、長期において積極的に進めてまいります。
まずは、電力の全面自由化が予定されている2年後を目標にスピード感を持って、知名度を上げ、態勢を整え、供給者の皆様との信頼感を深めていかなければなりません。そのステップのためにもマザーズ上場は最適なタイミングだったと考えています。

Q 株主様への利益還元に関してどのようにお考えですか？

A 会社の成長が株価に反映するように、しっかり成長をしてまいります。利益につきましては、この3年間は、成長のための再投資とさせていただき、大きな目標に向かって、目先にとらわれず事業展開を図ることを最優先させていただいております。
その後には利益の20%を配当金として還元を目指してまいります。東京オリンピックの年までに、1兆円の事業規模。これが当社の目標です。
そのためには、国外も視野に入れた成長戦略をしっかりと描いてまいります。当社のビジョンに共感いただきまして、今後とも末永く、ご支援をいただければ幸いです。

Business Outline

事業紹介



当社の創業事業である需給管理技術を起点に、
需要家サイドのエネルギーマネジメント、
発電サイドのパワーマーケティングを展開しています。

当社グループは、「エネルギー情報業」という単一事業を行っており、電力が流通するプロセスにおいて偏在するエネルギー情報を管理、提供することで、これまでエネルギーを自由に取引できなかった電力の需要家が最適な電源や電力会社を選択することを可能とし、また効率的なエネルギー利用を促進する各種サービスを行っております。

特定規模電気事業者 (PPS) 向け業務代行及び需要家向けエネルギーマネジメントサービスである「エネルギーマネジメント」と、電源開発、電力卸取引を主たるサービスとする「パワーマーケティング」を2つの区分として事業を行っております。

パワーマーケティング事業

エネルギーマネジメント事業

電源開発

発電所の建設・販売

再生可能エネルギーの電気設備の企画・設計・施工・建設や、発電事業の実施、その一連のコンサルティング事業を行っています。また、エナリスグループで発電所を開発し、売却する事業も行っています。

- 太陽光発電所
- バイオマス/ガス発電所
- バイオディーゼル発電所
- ファンド等による投資

- 発電所の電源開発/設備販売
- 屋根借り太陽光発電施設の設置・運営

電力卸取引

電力会社・市場仲介・トレーディング

太陽光・風力・バイオマス・小水力等の独立系発電事業者からの再生可能エネルギーや大型火力発電所からの電力を調達し、新電力 (PPS) や日本卸電力取引所、一般電気事業者へ販売する仲介及びトレーディング事業を行っています。

- 太陽光発電等の高値買取→売電
- 一括購入→小分け売電
- 細切れ購入→まとめて売電
- 節電電力の売買 (ネガワット取引)

- 金融的管理手法を駆使したリスクマネジメント事業
- 卸仲介取引、卸電力売買

創業事業

新電力 (PPS) 向け 業務代行

新電力の需要管理

新電力 (PPS) の設立支援、管理業務の代行等を行う事業です。需要家自らが新電力 (PPS) となり、自社の施設等へ電力供給する需要家 PPS や、本スキームを利用した地産地消エネルギー供給の仕組みを提供しています。

- 新電力 (PPS) の設立支援
- 管理業務の代行

- 実稼動新電力 約30数社中
延べ18社が当社に業務委託
(2013年12月31日時点)

エネルギーマネジメント

BtoB、BtoC 向けエネルギーマネジメント

電力代理購入サービスによって、電力の需要家に代わって当社がエネルギーを選択することができます。それにより調達改善、運用改善、設備改善につなげることで、さらにエネルギーを効率的に使用できます。

BtoB

- FALCON SYSTEM 販売
- 電力代理購入
- 運用改善コンサル
- デマンドレスポンス

BtoC

- HEMS/MEMS 販売
- ESQORT
- 蓄電池販売

- BEMS導入申請 第1位
- 電力代理購入 (関東、関西地域)
- 運用改善コンサル
- デマンドレスポンス
(東京/関西/九州/北海道/四国電力)

※BEMS: Building Energy Management Systemの略。ビル等のエネルギーを管理するシステム。
※HEMS: Home Energy Management Systemの略。一般家庭のエネルギーを管理するシステム。
※MEMS: Mansion Energy Management Systemの略。マンションのエネルギーを管理するシステム。

※ESQORT: エナリスグループの提供するソーシャル・スケジューリング・サービス。
※FALCON SYSTEM: エナリスグループの提供する節電に関するトータルサポートを担う電力マネジメントシステムの総称。

Future Prospect

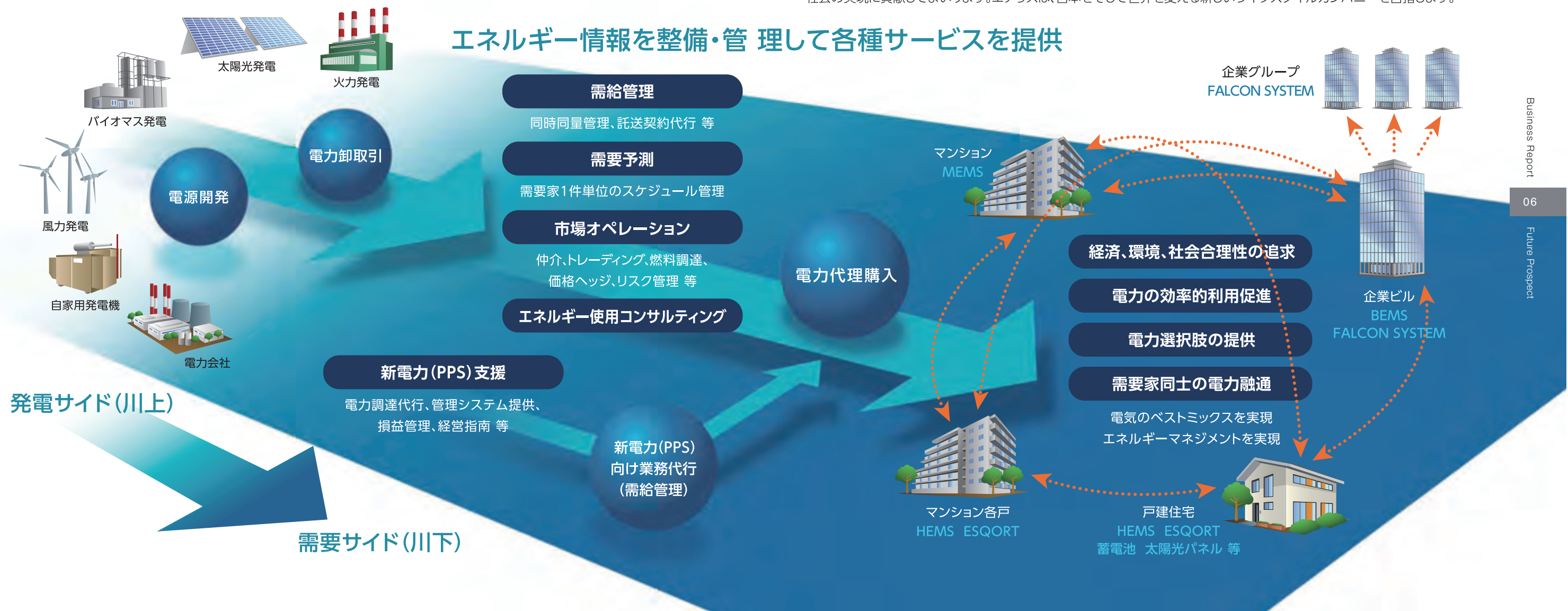
エナリスが目指す事業



エネルギー利用の効率化で世界の人々の生活を変える、
新しいライフスタイルカンパニーを目指します。

当社は、電力の効率的利用促進及び需要家への選択肢の提供を主に行っております。これまでの一般的なエネルギー供給は、大規模な発電所から家庭まで、いわば川上から川下への一方通行のエネルギー供給でした。しかし、これからは分散型エネルギー社会が実現し、家庭に太陽光発電システムや燃料電池、蓄電池等が普及していきます。経済合理性・環境合理性・社会合理性の3つの観点から欲しいエネルギーが選択できる時代に移行していきます。そうした時代の変化のなかで、当社はFALCON SYSTEM (BEMS)、HEMS、MEMS等のシステムを導入することにより、エネルギー消費地における「川下間でのエネルギー融通」が可能な社会の実現に貢献してまいります。エナリスは、日本をそして世界を変える新しいライフスタイルカンパニーを目指します。

エネルギー情報を整備・管理して各種サービスを提供



News & Topics

ニュース&トピックス

Topic 1

2013年10月8日

東京証券取引所マザーズ市場上場

当社は、2013年10月8日に東京証券取引所マザーズ市場へ新規上場いたしました。

株式公開企業としての責任を自覚し、広く社会生活の改善と文化向上に寄与できる企業となるよう、これからも社員一同一丸となって一層精進してまいります。



Topic 2

2013年10月

電力代理購入サービス開始

電力の調達力を活かし、電力需要家の調達先を見直す電力セレクトショップです。

当社が複数の電気事業者から比較優位な電力をユーザーに代わって選択し、電力需要家に販売する電力代理購入サービスを2013年10月より開始いたしました。

調達先を見直すことで電力料金の単価を削減したり、使い方を見直すことで電力使用量を削減したりすることで、電力料金を抑えることが可能となります。

Topic 3

2013年12月

バイオマス発電事業への参画とファンド設立

当社は、(株)フジコー(本社:東京台東区)との合併で、(株)一戸フォレストパワーを設立し、岩手県北部の一戸町で森林未利用材バイオマス発電事業に参画することを決めました。

また、当社の連結子会社である(株)フォレストキャピタルが結成する「緑の電力ファンド」が一戸フォレストパワーに出資するにあたり、当社も出資することを決定いたしました。



株式会社 一戸フォレストパワーの概要

所在地	岩手県二戸郡一戸町岩館字田中65番地1
代表者	小林 直人(株式会社フジコー代表取締役)
取締役	久保 好孝(株式会社エナリス取締役会長)
事業内容	バイオマス発電事業及び付帯事業
資本金	20,000千円

Performance Report

営業概況



前期に引き続き、 今期も過去最高の売上高、利益を目指します。

■ 前期の概況

平成25年4月に「電力システムに関する改革方針」、同年11月に「電気事業法の一部を改正する法律」が成立しております。

「広域系統運用の拡大」、「小売及び発電の全面自由化」、「送配電部門の中立性の一層の確保」の3本柱からなる電力システム改革の全体像が、実施時期も含めて明らかになりました。

当社は、エネルギー マネジメント 事業においては、「FALCON SYSTEM」の販売に注力するとともに、電力代理購入サービスの開発も実施しました。

パワーマーケティング事業では、複数の大規模太陽光

発電設備の建設を完了するとともに、当社グループ以外の再生可能エネルギー発電設備からの電力調達による取扱電力量の増加に注力いたしました。

■ 今後の見通し

これまで蓄積した新電力(PPS)向け業務代行のノウハウを活かし、需給管理システムの開発を強化するとともに、電力代理購入サービスの販売地域を広げることで、エネルギー マネジメント 事業の更なる拡大を図ります。

また、発電事業者からの電力仲介案件の獲得や、大規模発電設備の開発によって電力の調達先を確保し、需要家へ提供できる選択肢の増加に努めて事業拡大を行います。

業績推移(連結ベース)

	2011年12月期	2012年12月期	2013年12月期	2014年12月期(予想)
売上高(百万円)	1,480	5,103	10,177	34,223
経常利益(百万円)	331	519	681	1,260
当期純利益(百万円)	263	411	422	809
総資産/純資産(百万円)	913/333	2,011/761	6,056/2,642	—
自己資本比率(%)	36.5	37.7	42.3	—
一株当たり当期純利益(円)	25.00	10.91	10.86	18.78

※当社は2012年2月4日付で株式1株につき1,000株、2013年6月28日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。1株当たりの指標は、株式分割による遡及修正を行っております。

Financial Data

要約連結財務諸表

貸借対照表

(単位:千円)

科 目	第9期 2012年12月31日現在	第10期 2013年12月31日現在
資産の部		
流動資産	1,739,603	5,259,583
固定資産	272,379	796,859
有形固定資産	46,690	366,138
無形固定資産	208,337	383,909
投資その他資産	17,351	46,811
資産合計	2,011,983	6,056,442
負債の部		
流動負債	1,152,716	2,918,963
固定負債	97,842	494,664
負債合計	1,250,558	3,413,627
純資産の部		
株主資本		
資本金	95,000	781,504
資本剰余金	124,272	810,776
利益剰余金	575,026	1,003,564
自己株式	△35,475	△35,475
株主資本合計	758,823	2,560,369
少数株主持分	2,600	82,445
純資産合計	761,424	2,642,814
負債・純資産合計	2,011,983	6,056,442

POINT 1 資産合計

太陽光発電設備及びディーゼル発電設備の販売等による売掛金の増加、バイオガス発電設備の建設仮勘定による増加、ソフトウェアの増加等によるものです。

POINT 2 負債合計

買掛金の増加、太陽光発電設備建設資金に伴う資金調達、長・短借入金の増加、社債発行等によるものです。

POINT 3 純資産合計

株式発行の増加等によるものです。

損益計算書

(単位:千円)

科 目	第9期 2012年1月1日から 2012年12月31日まで	第10期 2013年1月1日から 2013年12月31日まで
売上高	5,103,679	10,177,081
売上原価	3,311,489	7,381,665
売上総利益	1,792,189	2,795,416
販売費及び一般管理費	1,272,047	2,054,421
営業利益	520,142	740,995
営業外利益	5,038	22,430
営業外費用	5,398	82,018
経常利益	519,782	681,407
特別損失	2,574	—
税金等調整前当期純利益	517,207	681,407
法人税等合計	105,906	257,494
少数株主利益又は損失(△)	△27	1,265
当期純利益	411,328	422,647

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	第9期 2012年1月1日から 2012年12月31日まで	第10期 2013年1月1日から 2013年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△234,042	△919,937
投資活動によるキャッシュ・フロー	△213,710	△598,338
財務活動によるキャッシュ・フロー	380,908	2,423,469
現金及び現金同等物の増減額	△66,844	905,193
現金及び現金同等物の期首残高	360,027	346,676
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	53,492	—
現金及び現金同等物の期末残高	346,676	1,251,870

Corporate & Stock Data

会社/株式情報



会社概要

(2013年12月31日現在)

会社名	株式会社 エナリス (ENERES Co.,Ltd.)
創 業	2004年12月
所在地	〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター
資本金	781,504,000円
決算期	12月
従業員数	166人(連結ベース)
上場市場	東京証券取引所マザーズ市場(証券コード:6079)

役 員

(2013年12月31日現在)

代表取締役社長	池田 元英
取締役会長	久保 好孝
専務取締役	長沼 隆治
常務取締役	右田 宏
常務取締役	渡部 健
取締役	高橋 直弘
取締役	藤田 昌香
社外取締役	村上 憲郎
常勤監査役	川崎 勝久
社外勤監査役	天城 武治
社外勤監査役	大村 健

株式の状況

(2013年12月31日現在)

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	43,200,500株
株主数	16,874名
単元株式数	100株

大株主

(2013年12月31日現在)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
池田 元英	11,825,000	27.37
池田 奈月	11,825,000	27.37
有限会社 プリシャス	1,900,000	4.39
辻中 馨	1,700,000	3.93
株式会社 SBI証券	1,012,600	2.34
松井証券株式会社	813,300	1.88
日本証券金融株式会社	757,900	1.75
野村證券株式会社	634,300	1.46
渡部 健	450,000	1.04
NIFSMBC-V2006S3投資事業有限責任組合	420,000	0.97

(注)当社は、自己株式122,800株を保有しております。
(注)持株比率は自己株式を含んでおります。

所有者別株主分布

(2013年12月31日現在)

